

## 「校友会ワイン大学」開く

### 近江教授、フランス革命とワインエピソードを講義

ワインを囲んで先輩や企業人と交流する「校友会ワイン大学」が、6月23日に神田キャンパス15階ホールで開かれた。当夜は校友、育友、教職員、学生ら98人が集い、2人の講師から蘆薈(うんちく)を傾けたワインの講義を聴き、校友会のオリジナルフランスワインと料理を楽しみながら歓談した。

冒頭に甘竹秀雄校友会会長があいさつ。日高義博学長から、ドイツ留学時代にワインと出合ったエピソードが披露され、このあと東京栄養食料専門学校講師でソムリエとしても知られる江畑進一シン・トレーディング代表取締役が講演。自家ぶどう園での栽培や、フランス・イタリアなどをめぐる旅で知ったワインの奥深さなどが語られ、ワインの扱い方、赤・白ワインの飲み方などの実演指導が行われた。つづいて近江吉明文学部教授が、洒落なエピソードを交えてワイン史を紹介。修道院で生まれたぶどう酒が広く一般化したのは「フランス革命に負うところが大きい」など、ヨーロッパの歴史の中ではぐくまれたワインの歩みを説き明かした。



▲ワインの歴史を紹介する近江教授



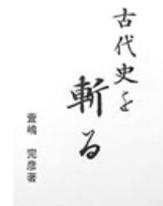
▲“めの方”を指導する江畑講師

《校友の本 紹介》

「古代史を斬る」萱嶋 完彦著

俳文学会、歴史研究会会員の萱嶋完彦さん(かやしま・さだひこ=昭37法)が古事記、日本書紀を読み解き、日本古代史の謎を追う「古代史を斬る」(自費出版、専修人特価=税・送料込み2000円)を刊行した。

出生年に二説、崩年に三説など、謎の多い第29代継体天皇についての研究成果をはじめ、5世紀から7世紀にかけて起こった出来事や、歴史上の人物について、独自の歴史観を展開している。



## 俳優の永島敏行さん 次号アドニス37号に

俳優の永島敏行さん(昭54文)が6月27日、神田キャンパスを訪れた。10月発行のアドニス37号にインタビューが掲載される。

《専大校友を訪ねて》

## 「ジュニア指導のプロ」へ挑戦

—NPO法人「福島夢集団」のサッカー・ユースチーム監督 須田敏男さん(平5商)

ワールドカップドイツ大会も閉幕し、4年後へ向け再スタートする日本サッカー界。そんな中、「福島県にJリーグチームを」を合言葉に活動するNPO法人「福島夢集団」のユースチームで監督として、サッカーの楽しさを伝えようと奮闘する。「いずれ教え子の中から日本代表や、世界で活躍する選手が出てきたらうれしい」と笑顔で話す。

千葉県市原市出身。小2からサッカーを始め、八千代松陰高から専大へ。卒業後はJTBでサッカーイベントの運営などに携わった。そこで接した子供たちの体力、思考力の低下を感じ、「何か自分にできることはないか?」と、指導者の道へ。

「“育成年代、(幼稚園から小学校卒業まで)の身体と頭を鍛えられるコーチに」と、ジュニア指導では国内トップのノウハウを持つクーバーコーチングスクールで基礎を学び、04年にはドイツに渡る。ケルンスポーツ大学に学びながら、名門・バイヤー04レバークーゼンのU8、U9チームのアシスタントコーチとして経験を積んだ。

指導者を目指したころから取り組んできたドイツ語は、ドイツ語統一試験(同国の大学に通うために必要な基準の一つ)に合格。習得のコツを「継続が大切。地道にやれば必ず身につく」と話す。

今年5月から「夢のあるチームで力を試したい」と現職に。「ドイツでは、子供のころから“自分で判断し、責任を持って行動する、という自立心を養う教育がされています。これはサッカーに限らず、今の日本人全体に欠けている部分。考えながらプレーすることを促し、自立心を植えつけたい」と指導理念を語る。

「熱中できることには積極的に挑戦してきました。これからも挑み続け、“育成年代、のコーチになりたい」と夢を語った。熱い思いはブログ「ケルン→福島の下で」、福島夢集団についてはHP (<http://www.fukushimadream.com>)で。



## 生田10号館(仮称)

### 建設工事が順調に進む

昨年着工した生田10号館(仮称)新築工事は全日程の中盤に差し掛かり毎日110人から130人の作業員が工事にあたっている。

建設は1階部分が進行し、2階部分の柱、壁面の立ち上げが始まった。120年記念館方面から見ると屋外の大階段と地下入り口の骨格も見え、緑に包まれた生田キャンパスの斜面に建物の全容が浮かび上がる日が近いことを感じさせる(工事の進行状況はホームページで紹介しています)。

